

ヨシダモトシゲ 吉田元茂 通稱初め雅樂助、後平兵衛。一諱重堅。父は方本。元和九年二歳にして父の後を受け、後遺知三百石に復し、家藝の射技を善くして更に二百石を加へ、慶安二年射手頭となり、萬治二年先引頭に進み、射手頭を兼ねた。元祿四年七十歳を以て歿。

ヨシダモリタケ 吉田守武 通稱逸角。一諱守紹。父守長の歿後遺知の中四百五十石を襲ぎ、前田綱紀に仕へ、承應二年大小將組に列し、寛文八年會所奉行となり、天和三年組外番頭に進み、元祿六年歿。

ヨシダモリナガ 吉田守長 逸角と稱し、慶長十五年前田利長に高岡で仕へ、父守政の歿後其の祿六百石を襲ぎ、大坂の役には大小將番頭となつて利常に従ひ出陣し、その後役には玉造口躰際に於いて敵首一つを獲た。正保四年歿。

ヨシダモリナホ 吉田守直 通稱茂平。守武の子。父の祿四百五十石を襲いで馬廻組に列し、近習番・先筒頭・異風裁許に歴任し、享保十九年九月廿九日六十六歳を以て歿した。

ヨシダモリナホ 吉田守尚 通稱勘右衛門。藩士伴八矢の興力であつたが、安永元年本組興力に列し、祿百八十石を受けた。その著に混見摘寫がある。

ヨシダモリマサ 吉田守政 通稱數馬・長藏。守好の子。前田利長に尾張荒子で仕へ、越前府中に従ひて百五十石を受け、石動山・柳ヶ瀬・巖石・松枝・八王子・大聖寺諸役に従うて功を立て、足輕頭・槍奉行に累遷し、祿増して五百五十石となり、別に千俵を賜はつた。元和元年歿。

ヨシダモリヨシ 吉田守好 尾張の人。通稱孫兵衛。前田利家に荒子で仕へ、越前府中に従うて祿百石を受け、後世子利長に越中守山に隸し、慶長二年歿。子孫藩に世襲する。

ヨシダヤガマ 吉田屋繁 大聖寺の町人吉田屋傳右衛門が、九谷焼を復興せんが爲に起した陶窯で、文政六年から江沼郡九谷で初めて之を開いた。然るにその地が山間の僻陬で不便であつたから、之を山代に移し、九年八月その初窯を開いた。この窯の製は石焼で、青色系の彩釉を用ひ、山代焼と言つたが、世人は新九谷とも吉田屋九谷とも稱した。傳右衛門の後、五郎作傳右衛門・仙藏傳右衛門を經、平市郎傳右衛門に至り家道衰へ、天保六年窯を宮本屋宇右衛門に譲つた。

ヨシダヤテンエモン 吉田屋傳右衛門 大聖寺の人。初名三太郎。傳次郎、諱は成元。豊田氏。寶曆二年四月十五日生まれ、明和七年十月家督を受けて酒造を業とし、文化八年正月隱居。文政六年以降その豊富の産を以て製陶を計畫し、七年九谷に吉田屋窯を開き、九年之を山代に移した。傳右衛門儒を早水淵水に、詩文を京の久川玄圃に、書を同永田觀鷺に、和歌を同小川織部に學び、繪畫・茶道・插花並びに之を能くし、柳窓・道紀・遷庵・石翁の號があつた。文政十年閏六月九日七十六歳を以て歿。

ヨシダヨシシゲ 吉田淑茂 通稱辰五郎・權平。鷹栖左門の子で、吉田暖茂の子左兵衛茂對に養はれたもの。父の遺知百石を減じて六百五十石を受け、天保十二年正月隱居して十五人扶持を興へられた。

ヨシツグ 吉次 加賀の刀工。吉次又は加

州住藤原吉次と切る。永正頃。

ヨシナガ 吉長 加賀の刀工。吉長と切る。明應頃。

ヨシノ 吉野 石川郡河内庄に屬する部落。初諱一秀。元祿二年前田綱紀に召出されて御奥小將となり、三年二月新知二百石を受け、組外・大小將に轉じ、同年十月又百五十石を加へ、前田吉徳御附御小將・同御附御先筒頭・御表御先筒頭を經、享保十年三百石を増し、元文四年三月五日歿した。

ヨシノガハ 吉野川 石川郡吉野附近に於ける手取川をいふのであらう。廻國雜記に『ほとけの原といへる所を過侍ると云々。吉野川といへる處にいたりてよめる。妹背山ありとはきかずこゝにしもよしの、川の名に流れつゝ』とある。

ヨシノキコウ 吉野紀行 一冊。文政十三年閏三月廿六日金澤から石川郡吉野に至つた記事で、序文に林泉戲書とあり、卷末に助齋師田祐吉識・白草林百福校とした記事がある。但し本書の主要部分をなす沿道及び吉野十景の圖畫は、矢田廣貫の吉野十景遊覽圖記からそのまゝ寫し取つたものである。

ヨシノキサカ 吉野木坂 江沼郡極樂寺のうち三俣から、黒崎の部落に出る間の坂路。

ヨシノゴウ 吉野郷 洞上聯燈錄の大智傳に、『至加州河内庄吉野郷。愛其峰巒幽寂適安禪。得苑而居焉。』とあるが、吉野郷といふのはない。こゝでは吉野村を唐めかして書いたに過ぎぬ。

ヨシノサンザエモン 吉野三左衛門 前田利長に仕へて三百石を領し、自昌院御附とな

つて淺野光晟から三百石を加へられた。子孫相繼いで藩に仕へる。

ヨシノジツケイ 吉野十景 石川郡吉野附近の十勝で、太白山・飛龍岩・高月池・鉢頭峰・虎狼山・白布瀑・仙雲峰・高門橋・月影澤・雲龍山である。越登賀三州志に明峰の祇陀寺に至つた時選じたとあるが、明峰のそこに居たことは、洞上聯燈錄にも本朝高僧傳にも見えぬ。又大智行録には『界内數里有象王峰法界嶽。殿月井白玉泉等十境』となつて居る。

ヨシノジツケイユウランズキ 吉野十景遊覽圖記 一冊。吉野十景巡見記ともいふ。矢田廣貫著。石川郡吉野なる祇陀寺の遺蹟、及び吉野の十景を遊覽して之を圖し、その附近の名所を聊か註記したものである。序文に寛政壬子卯の花月二十日四如翁戲書、奥に行年七十五四如軒と記す。また卷尾に、安政七年五月野々市の十村少左衛門等が提出した白山村附近の名所に關する書上を添附した本もある。

ヨシノセキシヨ 吉野關所 石川郡吉野に在つた。藩國官職通考に、寛永十七年こゝに關所を設け、前田平左衛門をして守らせたが、關道があつたので後に木滑に移した。その移轉は萬治二年平左衛門の死去前であらうと記する。但し寶永二年正月十村吉野村甚七の書上には、吉野の關所は寛永十八年に初り、正保元年までは足輕のみであつたが、同年四月前田平左衛門正次が奉行となり、萬治二年正次歿して子平左衛門正直後を受け、寛文元年之を木滑に移したとする。

ヨシノタバコ 吉野煙草 石川郡吉野で産した煙草をいふ。北國巡杖記に『吉野といへ